令和の新常識 冠婚葬祭を大調査

3月23日放送

ぺこぱのいま知りたい！
冠婚葬祭ガイド

BSテレ東

提供 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

日本人の生活と深い結びつきを持つ冠婚葬祭。古き良き伝統として受け継がれ、時代の移り変わりとともに、その姿は大きく模様替えをしてきました。3月23日、BSテレ東で放送された「ぺこぱのいま知りたい！冠婚葬祭ガイド」では、「冠」「婚」「葬」「祭」それぞれに焦点を当て、最新トレンドを徹底調査。舞台裏で働くプロフェッショナルを特集するとともに、アフターコロナの新常識を探っていきました。

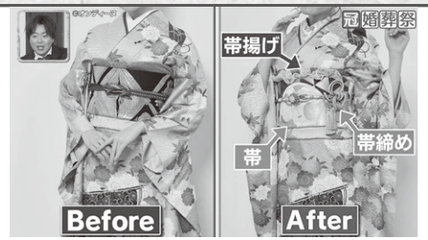
冠婚葬祭を解説する国立歴史民俗博物館の新谷尚紀氏

司会進行を務めるお笑いコンビ「ぺこぱ」

冠

代々つながる思い出の振袖

成人式の振袖選びは1年前では遅く、2年前から始めている家庭が半数以上です。さいたまスーパーアリーナで行われた振袖の大展示会で、様々な家族の振袖選びに密着しました。三姉妹で着るために約100万円の手描友禅を購入する家族や、母親の振袖（ママ振り）をアレンジし、現代風に着こなす家族などを紹介。成人式後には思い出の振袖を鞄や日傘、ひな人形にリメイクする方もいました。



帯締めや帯揚げなどの小物類を変えると、ママ振りの印象が大きく変わる

一生に一度の晴れ舞台を彩る振袖。代々着続けられるのはもちろん、姿を変えて愛され続けています。

婚

幸せを支える舞台裏

華やかな結婚式の舞台裏で活躍する様々なスペシャリスト。そんなプロ集団を束ねる、ウエディングプランナーの仕事に密着しました。舞台は東京・代官山にある鳳鳴館で、大正ロマンとレトロな雰囲気が特徴的です。理想の結婚式を実現するために、事前のヒアリングから当日までトータルサポートする役目を担います。

結婚式当日は早朝から司会、ヘアメイク、照明など、14職種のスタッフと綿密に打ち合わせを行い、進行を監督します。どのセクションも最終確認に余念はありません。挙式では結婚指輪を手渡し、人生でもっとも幸せな瞬間に立ち会います。披露宴を終えると結婚証明書を新郎新婦に手渡し、背中を見送りました。

人生の一大イベントをサポートする、笑顔と幸せにあふれたお仕事でした。

足の悪いお客様に合わせ、退場口を段差がない扉に変更。臨機応変に送り出す

アングルなど、撮影の要望が記載された「撮影指示書」が最近のトレンド

葬

心残りのないお別れを

続いて番組では葬儀を取り上げました。近年ではコロナ禍により、家族葬にせざるを得なかったケースが多くあります。2019年の調査では、葬儀を行った方のうち3人に2人は、その内容に悔いが残るという結果が示されました。

遺族の力強い味方が葬祭ディレクター。職務内容は遺体のお迎えや式場の設営、通夜・告別式の司会進行などで、葬儀に関する全般を取り仕切ります。豊富な知識と技能で遺族が悲しみを乗り越えるサポートをします。千代田セレモニーの葬儀に関する事前相談では、万一に備え「葬儀形式の希望」「銀行の口座情報」「スマートフォンの暗証番号」を家族に伝えておくと良いと助言。「元気なうちに家族と話し合い、後悔のないようにしましょう」と伝えました。

厚生労働省認定の葬祭ディレクター技能審査制度。
葬祭ディレクターの資格取得には知識と技術が審査される

最初の葬儀に悔いを残した遺族が、2度目の葬儀を行うケースもある

祭

お祭りが復活 奇祭にも注目

コロナ禍で長期間開催できなかったお祭り。「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の廃止に伴い、今年から各地で通常開催されています。鹿児島県指宿市で催されたメンドン祭りでは、お面を被った人（メンドン）が住民の顔に大根でススを塗り、無病息災を願いました。茨城県笠間市では、参加者が天狗に向かって悪態をつき、怨霊や疫病を退治する悪態まつりが行われました。

海外からの観光客も増え活気を取り戻した日本のお祭りを、家族や友人と楽しみましょうと締めくくられました。

インバウンドの活性化により、お祭りに参加する外国人が増加

広　告

【お問い合わせ先】 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会　https://www.zengokyo.or.jp/